

明日へつながる、より確かな医療連携をめざして。



済生会熊本病院の がん診療 最前線

無菌室増設で広がる血液疾患治療

創 立 90 周 年 記 念 謝 恩 会

済生会熊本病院



祝宴の様子



当病院長の中尾による主催者挨拶



乾杯の様子

2025年9月6日(土)

済生会熊本病院は創立90周年を記念し、
ホテル日航熊本にて謝恩会を開催いたしました。

1935年の創立以来、地域医療の発展に尽力してきた当院の歩みを振り返りながら、これまで
支えてくださった皆様への感謝の気持ちを伝える場となりました。

当日は、連携医療機関の先生方をはじめ、当院の元職員や現職員など、約350名の皆様にご
参加いただきました。

来賓には当会の潮谷会長をはじめ、熊本県健康福
祉部長 下山様、熊本市副市長 岡田様、熊本県医
師会副会長 金澤様、熊本市医師会会長 園田様、
上益城郡医師会会長 大橋様、熊本大学病院病
院長 平井様、熊本大学医学部長 尾池様、熊本県済
生会OB会会長 大塚様をお招きしました。

ご参加いただいた皆様はもちろん、日頃よりご支
援・ご協力をいただいているすべての皆様に、心よ
り御礼申し上げます。



元総婦長の重松氏と須古名誉院長
長年の功績を讃え合いながら握手を交わされました



当院と同じ熊本市南区に本蔵のある地元
酒造「瑞鷹」とコラボした甘酒も記念品と
して配布いたしました。



当院職員による演奏も行いました

済生会熊本病院の がん診療 最前線

済生会熊本病院のがん診療について

当院は、2007年に外来がん治療センターを竣工し、2008年から地域がん診療連携拠点病院に指定され、2021年からはがんゲノム医療連携病院としても認定されています。2023年4月には、外来がん診療センターをリニューアルし、ベッド数を20床から36床に増床いたしました。完全個室の問診室・相談室も備え、多職種が常駐するスタッフステーションで、より安心して治療を受けていただける環境を整備しています。



治療個室 14床



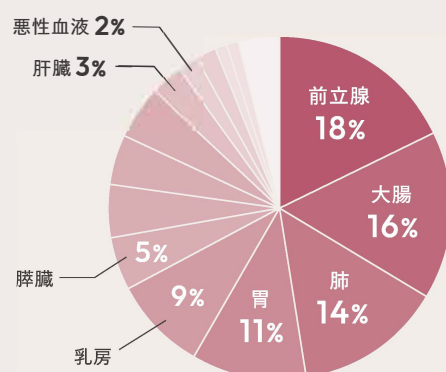
リクライニング 22床

外来がん治療センター

がん薬物療法
(化学療法)
患者さん治療エリア

がん診療の実績

■ 部位別割合(2023年)



当院の2023年度の年間点滴治療件数は6,607件に上り、前年度比で660件増加いたしました。院内がん登録件数(2023年)の部位別割合では、前立腺18%、肺14%、胃11%、乳房9%、膵臓5%となっています。

■ 院内がん登録件数(2023年)

2,024件

■ 年間点滴治療件数(2023年度) ※外来、延べ件数

6,607件

(前年度比: +660件)

HOT TOPIC!

ソマトスタチン受容体陽性の神経内分泌腫瘍(NET)に対し、放射性医薬品「ルタテラ®」を用いたRI内用療法を開始しました。対象疾患は膵臓、消化管、肺などに発生する神経内分泌腫瘍です。2025年9月現在、熊本県内で本治療を受けられるのは当院を含め2施設のみです。ご紹介やご相談がございましたら、どうぞお気軽にご連絡ください。

総合腫瘍外来 への紹介方法

予約専用ダイヤル [受付時間 / 平日8:30~17:00]

090-9596-8367

外来
診察日

月・水・金
(14:00~16:00)

- 地域医療連携室スタッフが対応いたします。医師にご相談の場合は別途お繋ぎいたします。
- 医師、看護師だけでなく予約担当者様からののお電話も承っております。

・ 無菌室増設で広がる血液疾患治療 ・

熊本における血液診療の現状と 当院の取り組み

熊本県では人口の高齢化が進み、血液疾患を抱える患者さんが増加傾向にあります。一方で、高度な治療を提供できる施設は限られており、患者さんが遠方の基幹病院に通院せざるを得ないことが、特に高齢の患者さんにとって大きな負担となっています。

こうした地域の課題に対し、当院は2025年1月に病棟に無菌室を2床増設し、血液疾患治療の体制を強化しています。この無菌室は、HEPAフィルター付きの空調設備や滅菌水供給器付きの手洗い器、洗浄便座付きの便器を備えています。



2025年1月
病棟に無菌室を2床増設

HEPAフィルター付きの空調設備 / 手洗い器(滅菌水供給器) / 便器(洗浄便座)



無菌室の増設により、これまで対応が難しかった以下の疾患群に対して、本格的な治療が可能となります。

急性白血病 (急性骨髄性白血病:AML、急性リンパ性白血病:ALLなど)

寛解導入療法、地固め療法ともに強い骨髄抑制をきたすため、無菌室による管理が必要です。治療中は輸血や感染症に対する抗菌薬治療を行います。

悪性リンパ腫

初回の薬物治療は入院で行い、その後は可能な限り外来での治療に移行します。難治性疾患に対しては強力な薬物療法を無菌室管理のうで行います。

多発性骨髄腫

初回の薬物治療は入院で行い、その後は外来に移行します。骨病変に対しては放射線治療を併用します。移植適応の患者は他施設への紹介を行います。

再生不良性貧血

移植非適応の重症例に対し、抗ヒト胸腺細胞免疫グロブリン(ATG)を用いた免疫抑制療法を行います。著しい血球減少を伴うため、無菌室で感染症管理を行います。



総合腫瘍科 医長
(がん薬物療法担当)

三井 士和 Norikazu Mitsui

- ・日本血液学会(血液専門医)
- ・日本内科学会(認定医、総合内科専門医)
- ・日本臨床腫瘍学会(指導医、がん薬物療法専門医)

治療技術の進歩により、患者さんへ高度ながん診療を提供することが可能になりました。しかしそれは患者さんに対する診療の一部であり、全体像を最も良くご存じなのは日頃から診療されているかかりつけの先生方だと考えています。地域の先生方と力を合わせて、患者さんにとってより良い医療を届けていきたいと思っています。